

【報道関係者各位】

2019年11月25日

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会
大分国際車いすマラソン事務局

2020年に向けたレガシープロジェクト「i-PLAY TRUE リレー」 第39回大分国際車いすマラソンにて 障がい・年齢・国籍を超えて約1000名が クリーンでフェアなスポーツへのメッセージを発信！！

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(所在地:東京都、会長:鈴木秀典、以下 JADA)と公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会(所在地:東京都、会長:鳥原光憲、以下 JPC)、大分国際車いすマラソン事務局(所在地:大分県、事務局長:淵野勇)は、2019年11月17日(日)に開催された「第39回大分国際車いすマラソン」(主催:大分県、日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会など)および関連施設・イベントにおいて東京2020公認プログラムである「i-PLAY TRUE リレー」を実施し、約1,000名がクリーンでフェアなスポーツへの想いを発信しました。

大分国際車いすマラソンは、1981年に世界初の車いす単独のマラソン大会としてスタートとして以来、年々参加者が増え、今2019年大会は18カ国から210名が出走しました。今回は来年の東京パラリンピック競技大会への出場資格獲得の大会である2020マラソンワールドカップ派遣選手の選考大会にも位置付けられています。2000名以上のボランティアが大会を支え、多くの市民が声援を送る中、白熱したレースが展開されました。

JADA、JPC、大分国際車いすマラソン事務局では、この大会をより「クリーンでフェアな」大会にすることや、TOKYO2020大会に向けて「クリーンでフェアな」スポーツの意義を、大分から世界中に発信するため TOKYO2020 に向けたレガシープロジェクトである「i-PLAY TRUE リレー」を実施しました。このプロジェクトは、JADA とスポーツ庁が、日本政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業「SPORT FOR TOMORROW」*1 および「PLAY TRUE 2020」*2 の一環として2018年12月に開始したもので、「スポーツのチカラ/価値」についてのメッセージや、スポーツに対する自分の心の中を映し出すシンボルポーズである「フィルターポーズ」での写真・動画を集め、東京2020大会期間中にアート化し、パブリックビューイングスペース等に展示するものです。既に世界各国からメッセージや「フィルターポーズ」などが集められています。



「i-PLAY TRUE リレー」の実施機関である JADA、大会の主催者である JPC、大会を運営する大分国際車いすマラソン事務局が協働することにより、11月15日(金)から17日(日)まで3日間、大分県では初めての取り組みとして、選手・大会運営者・ボランティア・一般の人々など、障がいの種類や程度、年齢、立場の異なる1,000人以上の人々から「スポーツの価値/チカラ」についてのメッセージが発信されました。

15日は、日本のパラリンピック発祥の地とも呼ばれる障害者就労支援施設「太陽の家」(別府市)でプロジェクトを実施しました。この施設は、大分国際車いすマラソンの提唱者であり、1964年の東京パラリンピック大会の実現に奔走され、日本選手団の団長を務めたことで有名な中村裕氏によって創られました。「i-PLAY TRUE リレー」には、利用者や職員・関連企業社員の方など約100名が参加し、利用者からは、大分国際車いすマラソンに出場する同僚へのメッセージや、日ごろから施設内でスポーツを行う中で感じている「スポーツの価値/チカラ」など、数多くの力強いメッセージが発信されました。

大会前日は、大分国際車いすマラソン選手受付に「i-PLAY TRUE リレー」ブースを設置、海外からの招待選手を含む94名が、大会を前に大会への想いなどをポスターに記しました。アイルランドから初参加したパトリック・モナハン氏は『限界を引き上げよう(Push to your limit)』というメッセージを記入、今回で38回目の出場となる最高年齢出場者

の工藤金次郎氏(93歳)もスポーツの意義について『老後の力』というメッセージを発信しました。ブースでは「フィルターポーズ」の撮影を通して、日本の選手と海外の選手が交流を深める場面も見られました。選手受付での実施と合わせて、商店街の中で実施された開会式や TOKYO2020 に向けて大分での事前キャンプを決定しているスイスとの友好促進を目的に駅前広場にて開催された「スイスフェア」でも、一般の人々から『スポーツは国を越える』『ベストを尽くした姿は美しい』など「スポーツの価値／チカラ」について多くのメッセージが集まりました。



大会当日は、大分国際車いすマラソンのフィニッシュ地点で閉会式の会場となる競技場にて、ゴールした選手やレースを応援するために集まった約400名の少年団の子どもたち、大会役員などが、レースに参加・応援して感じた車いすマラソンの魅力やスポーツから学んだことなどのメッセージを積極的に記入しました



3日間で集まったメッセージは、大会終了後に行われたフェアウェルパーティー「交歓のタベ」の会場に展示されました。大会を支えた通訳ボランティアなどのメッセージも加わることで、大分国際車いすマラソンを通して創出・共有された「スポーツの価値／チカラ」がより多様な視点から表現され、大会終了後も残るレガシーとして刻まれました。

JADA、JPC、大分国際車いすマラソン事務局では、今後もパラリンピアンや障がい者スポーツ関係者、市民ら一人一人からのメッセージを繋ぎ、2020年およびその後に向けて「クリーンでフェアな」スポーツの実現に寄与していきます。

*1 “SPORT FOR TOMORROW”:

2014年から東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を開催する2020年までの7年間で開発途上国を始めとする100カ国・1000万人以上を対象に、日本国政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業。世界のよりよい未来をめざし、スポーツの価値を伝え、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントをあらゆる世代の人々に広げていく取り組みです。

<https://www.sport4tomorrow.jp/jp/about/>

*2 “PLAY TRUE 2020”:

日本国政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業“Sport for Tomorrow”における3つの柱の1つであるアンチ・ドーピング活動を通じた国際貢献・協力事業。スポーツの価値・精神を基盤とし、アスリートのロールモデル育成をはじめとした、スポーツのインテグリティを守る活動としてのアンチ・ドーピング活動を、国際競技連盟、国内競技連盟、海外アンチ・ドーピング機構、スポーツの価値を推進する団体などと連携し、展開しています。

<http://playtrue2020-sp4t.jp/>

<https://www.playtrue2020-sp4t.jp/ptrelay/jp/> プレイ・トゥルー・リレー(アスリートからアスリートへスポーツの真実をつなげる、巻物をトーチとしてリレー)

<お問い合わせ>

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA) SFTグループ(担当:岸、堀)
TEL:03-5963-5708 FAX:03-5963-5709
MAIL:playtrue2020.info@playtruejapan.org

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会(担当:安岡)
TEL:03-5939-7021 FAX:03-5641-1213
MAIL:naoe_yasuoka6599@jsad.or.jp

大分国際車いすマラソン事務局(担当:古澤)
TEL:097-506-2738 FAX:097-506-1736
MAIL:furusawa-naoki@pref.oita.lg.jp